

<今日の説教のポイント ルカによる福音書8章22～25節>

1 風と波を静めるなんてあり得ない？ 本当の神様ならあり得る！

風と波を静められるという、イエス様の奇跡の中でも一風変わったスケールの大きな奇跡です。「一風変わったスケールの大きな」奇跡だと思う理由は、病人の病を癒される奇跡ではなく「自然」を相手にした奇跡だからです。そこで科学的な自然法則で捉える「自然」を考えていたら、「風や波がたちどころに静まることなんてあり得ない」と思うでしょう。しかし神様が「自然」を造られたのであり、「自然」は神様の御手の中にあると考えると、「神様が風や波をたちどころに静められることはあり得る」と考える方がむしろ『自然』でしょう（詩編 89:19）。神様にとっては、病を癒されることと自然を静められることは大差ないことあって、奇跡などではない神様の御業なのです。

2 イエス様も乗っておられ、眠っておられた。それが持つ意味は？

この話で驚き覚えさせられるもう一つの点は、この船にイエス様も乗っておられ、しかも弟子たちが恐れおののく中、眠り続けておられたということです。なぜそんなことができたのでしょうか？ 聖書の中で同じような状況で同じ姿を示した人物がもう一人います、ヨナです（ヨナ書 1:5）。両者がそのように眠っていたのは、すべて神様の御手にあることを知っていたからでしょう。「自分で何とかしなければ」とは違う考え方を持てるようになること、信仰者の恵みの一つですね。

3 「あなたがたの信仰はどこにあるのか」

しかしこの時弟子たちは恐れおののいたのです。そしてイエス様に言われました、「あなたがたの信仰はどこにあるのか」と。弟子たちはイエス様を疑っていたのではありません、まだよく分からなかったのです（25）。イエス様が神様と関係あるお方、否、神御自身（子なる神）だということがまだ分からなかったのです。大事なことは、だからこそ、彼らはこうして分かるための訓練を受けているのであり、後にこの神様がどんな時にも同乗して下さっていることを覚えて立ち続けることのできる信仰者の群れ、教会を建てて行く者となっていったのです。